

京田辺ぐるどんマッププロジェクト

同志社大学 政策学部 真山ゼミCチーム

1. はじめに

昨年春に亀岡市で登校中の児童の列に軽自動車が入り込み、計10人がはねられて3人が死亡、7人が重軽傷を負うという悲惨な事故が起こった。この事故を受けて、京田辺市を含め、全国的に通学路の安全性が求められている。

2. 問題提起

(1) 京田辺市の現状

- ・通学路安全点検踏査事業...京田辺市では毎年、PTAや警察関係者などが児童と一緒に通学路の安全点検踏査を行っている。2012年度は、これまで2校ずつ行っていた踏査事業を、全校で実施。
- ・平成24年度一般会計補正予算...通学路の安全対策に1000万円の予算が割り当てられる。道路の補修や整備、看板の設置などの事業が展開。
- ・登下校の安全指導

(2) 子どもは適応能力に限界がある

子どもは知覚・認識能力が大人より発達未成熟。また、子どもは独特の思考を持っていて例えば自分は走っていてもすぐに止まれるから、車もすぐに止まれるはずだと考える。こどもの生物学的能力からも安全教育には限界がある。

このことから... 交通事故の加害者の多くは大人！通学路の安全対策のためには、大人の努力が必要不可欠！！

(3) 京田辺市の通学路の見守り活動の現状と問題

(例) 松井ヶ丘小学校の見守り活動

組織されている団体...山手東子どもを見守る会、ほほえみ、見守り隊、PTA(情報共有のもと活動を分担)

その他、自主的な見守り活動も存在する。

松井ヶ丘小学校区をはじめとする、京田辺市の小学校では学校安全ボランティアとして、その地区の住民の方々が自主的に通学路の見守りに参加している。

市民や子ども目線での意見も織り交ぜることで今までとは一味違った、より質の高い交通安全対策がとれるのでは。

行政、学校、ボランティア（市民）バラバラに活動しているこれらの歯車をうまくかみ合わせることが出来るような施策とは？

3. ぐるどんマッププロジェクト

ぐる...ぐるっと市民全体で どん...どんだん更新

作成過程

- 1、団体に行政が学校を通してマップを配布。通学路において危険に感じる箇所があれば、理由とともに明記する。行政にマップを提出。
- 2、小学校に対して、各小学校区の通学路マップを配布。子供と保護者が通学路と一緒に歩いて危険箇所をチェックし、その後学校で行われている地区ごとの集まりを活かして、マップを1枚にまとめる。学校は地区ごとにまとめられたマップをひとつにし、行政に提出。
- 3、行政は各小学校及び団体から記入したマップを回収したのち、それらのマップを合成する。

ぐるどんマップの活用方法

どんだん更新！

京田辺市 HP に完成したマップを学校ごとに掲載。危険理由別にアイコンで表示。多くの人が危険と感じ、クリック数が増えるごとにアイコンの色がどんだん赤になる。クリックした箇所の一体何が危険なのかについて詳細を書き込むことも可能。月1回のペースで紙媒体で配布。

ぐるっと見回る子ども視点！

ぐるどんマップをもとに、行政が小学校低学年の平均身長を目線で通学路をぐるっと歩いて記録ムービーを作成。出来上がったムービーは、ボランティア講習会や教育現場、教習所などで公開し、大人への啓発を進める。

マップのメリット

子供目線の意見を取り入れることができる

...通学路を利用する当の本人たちである児童の目線を大切に。体感的・精神的な子供視点の意見を取り入れる。

マップによる行政・学校・ボランティアの連携

...それぞれの団体が持つ力を無理なく引き出し、ひとつに集めることによって今よりも質の高い通学路の安全対策も可能。

リアルタイムでの更新...常に新しい情報を発信する。

マップ作成者”の増加...作成者に強く意識づけを行える

4. ヴィジョン_____

大人が進んで子どもを守る地域ネットワークの構築